

# 音

## の ま に ま に

Music Life

EIGHT

映画評論家、バッグデザイナーの木村奈保子さんが送る「音のまにまに」。木村さんの鋭い視点は、多方面で活躍するからこそだろう。映画で演奏シーンがあると、吹き替えなどで違和感を感じてしまう読者も多いのではないかな。そこで今回は、映画の中の音楽……ではなく、音楽が主体の映画の話である。

ありのままで芸の力が出せるのは一部の天才だけなのか

演奏者は、コンサート(演奏会)の終了後、反省会や打ち上げをする。落ち込んだり、盛り上がったたり、悲喜こもごもだろう。

ご覧になった方も多いと思うが、テレビで放送された、ある高校の吹奏楽部では、自分たちがコンクールで優勝しても、決して喜びすぎて大騒ぎするな、という熱血先生の指導が印象的だった。

周囲には、負けたために打ちひしがれている演奏者たちがいるから、同じ仲間として、もっと謙虚な態度を見せよ、というストイックなところの教育だったと思う。

かといって、なあなあのチームワークではなく、ひとりのキャスティングについて、最後の最後まで競争原理を生かし、敗者への厳しい選択も容赦なく実行しているようだった。

スポーツマンシップと同じように、ミュージックマンシップがより確立されれば、活躍の場も広がり、就職活動にも経験を活かせるのではないかな。

そういえば、私が卒業した高校は女子校だったせいか、コーラス練習に力を入れており、毎年甲子園に「出場」する。要は野球の応援歌を歌う。吹奏楽と同じような位置づけだ。が、私はその時思った。

「音楽の試合で、スポーツ部に応援してもらおうという逆のパターンは、ないのだろうか？」

さて音楽的な競技では、国民的人気のフィギュアスケートが、昨年も特別な盛り上がりを見せた。しかしスケート競技とは言え、音楽、ダンスセンスを必要とするスポーツ。ただスケートの技術的な規定と魅力的なダンスセンスは必ずしも一致しないと思うことがある。ダンスフリークとしては、振付が音に合っていないと感じるとき、ちょっと、むずがゆい。ダンスを見たいがために、「スケート靴がなければもっとリズムが……」とついつい行き過ぎた考えも浮かぶ。

日本人として、優れたスポーツ選手はいまや、もっともグローバルでポップな地位を築いている。

いつか、オリンピックは運動競技だけでなく、歌やダンスを含めた音楽競技の時代が来るかもしれない、と私は期待する。

例えば、私の好きな香港スターの凄みは、“舞うように蹴る”アクション性にある。ブルース・リーが伝説となったのも、格闘技を極めながら、ダンスと演技を持ち込んだ出で立ちの美しさが重要な要素だ。

オリンピックでも、こういうジャンルが見たい。

そもそもカンフー映画の魅力は、達人による“超絶技巧”と言えるような技、技、技の連続。その上に、ストーリー性をかぶせていく展開だ。

昨年見たスペイン映画で、「グランドピアノ 狙われた黒鍵」は、超絶技巧の天才ピアニストが主人公のサスペンス。

彼は天才でありながら、あるトラウマからステージ恐怖症になっている。しかし恩師の死により、追悼コンサートで、再び舞台に挑むことを決意するのだが……。

このあとから、この映画は、異色の展開を見せる。

いよいよ演奏会の日、主人公の青年は舞台にあがる。

しかし準備された譜面のなかには、不気味なセリフがあった。

「一音でも間違えたら、お前の命はない！」

演奏曲は、亡き恩師と自分しか弾けないとされる超絶技巧の曲。



木村奈保子

映画評論家、作家、演出家、NAHOKデザイナー。京大外大卒業。CBC局アナから映画評論家へ転身。

ゴールデンタイムの映画解説を17年間勤め、同時に演出家としてテレビ番組やファッションビデオの制作や、著作、講演なども多数手がける。昨今は、映画音楽の演奏活動やプロデュース、ダンス舞台の演出ほか、画期的な楽器ケースを研究開発、デザイン。文化的かつ、アントレプレナー(企業家)の資質で活躍する。 [www.kimuranahoko.com/](http://www.kimuranahoko.com/)



「グランドピアノ～狙われた黒鍵」  
販売元:ハビネット  
【BIBF-2664】  
DVD発売日:2014/09/02  
価格:¥3,900(税抜)  
監督:エウヘニオ・ミラ  
音楽:ピクトル・レイェス  
出演:イライジャ・ウッド、  
ジョン・キューザック

(C) NOSTROMO PICTURES SL / NOSTROMO CANARIAS 1 AIE /  
TELEF&Oacute;NICA PRODUCCIONES SLU / ANTENA3 FILMS SLU 2013

映画の中では、超絶技巧の曲として、監督自身が作ったオリジナル曲『ラ・シンケッテ』を使用している。監督は、そもそも音楽家(作曲家)で、この難曲の最後の15小節は実際にも、演奏不可能というのだが……？

主演は、「ホビット」「ロード・オブ・ザ・リング」のイライジャ・ウッド。劇中も、ほぼ自分で演奏をしている。

延々と続く難曲に挑戦しながら、「一音でも間違えたら、殺す！」と脅してくるスナイパーとの会話が、携帯を通じて同時進行する。つまり、主人公はステージ上でピアノを弾きながら、器用にスマホトークするのだ。これぞ、現代の“超絶技巧”？

若干ナンセンスとも思えた発想だが、演出は音楽家によるもの。映画監督に、音楽好きは多いが、映画好きの音楽家は珍しい。ここでのクラシック音楽は、ストーリーを盛り上げるBGMではなく、演奏そのものが主体なのである。演奏シーンに、恐怖を煽るストーリーが組み込まれ、ドラマを進行させていく。傑作というより、映画として新鮮な世界観が見える。

超絶技巧といえば、最近ではヴァイオリストのデヴィット・ギャレット本人が映画「パガニーニ 愛と狂気のバイオリニスト」(2013年、独)で主演を演じた。

ギャレットが音楽以外に、演技的な部分もクリアしたことで、映画における音楽性がより高くなったと思う。

音楽映画は、ドキュメントでない限り、俳優が音楽家を演じることは珍しくなく、ハリウッドスターの実力は計り知れない。

しかし、音楽家自身に演技や演出なる役割をクリアしていく個性が

あったり、それなりの訓練をしていれば、あえて本人が出演することにより、より高い質の音楽映画が作られる。

「オーケストラの少女」(1937年、米)に出演した指揮者レオポルド・ストコフスキーも、存在感が残る、強烈な音楽家だった。

では、自分に置き換えた場合、演奏中の自分は絵になる存在だろうか？ デクノボウの表情をしていないだろうか？

私の場合は、若い頃から不本位にも(向いていないのに)テレビで話すという仕事をしてきたためか、逆に格好をつけていないときの表情が、実に半端で美しくない。自分の地のままで話している時や、歌っている時の表情も、まるで絵にならない。

そう感じるのには、演技力を磨いていないのと、芸の力が足りないせいだと自己分析している。だから、裏方の客観性を用いて、いつも前に出るときは、自己演出をしている。

ありのままで芸の力が出せるのは一部の天才だけなのか。

いつも仕事の後は重い腰を上げて、自分の声や表情を映像や音でチェックしてきたが、そのたびに、がっかり。そして反省。

やがて自分の良い所をなんとか無理やり発見し、強引に自己回復させる。

そういえば、一流の音楽家さえ、自分の演奏に一回でも満足したことがないと言いきっていた。

プロのアーティストはかくして、向上心を持続させる。

音楽家は、願わくば、競技的なステージや映像の世界など、活躍する場をもっとさまざまに広げてもらいたいものだ。



Information

## NAHOK(ナホック)新作のご紹介

### フルート ダブルケース「Gabriel」

このクラリネットのWケースとして制作された「Gabriel」は、フルート奏者にも人気のバッグ。スコアブリーフよりも縦が3.5cm、横1cm、マチ幅1cm大きいサイズなので、B4の楽譜が一緒に入れます。また広い面なので衣装も収納できます。荷物が重くなってもリュックになるので持ち運びも楽ちんです。

(外寸): 縦32cm × 横49cm × 幅9.5cm

(内寸): 縦31cm × 横48cm × 幅8.5cm

(重量): 930g(ショルダーベルト含まない重さ。実際はベルト付き)

(色): クリーム/キャメル マットブラック ブロンズグリーン/黒 ディープブルー  
ホワイト/ピンクベージュ マットチャコールグレー/赤(6タイプ)

\*フルートH管まで余裕で収まる幅で、B4譜面対応です。

\*重量はショルダーベルトを含まないものです。

\*実際はマチ幅11cm~12cmくらいのハードケースまできれいに入ります。

[www.nahok.com](http://www.nahok.com)

NAHOKは、ドイツ製完全防水生地、止水ファスナーを加え、さらに欧州輸入の耐衝撃、温度 & 湿度調整機能素材を挿入したミュージシャンのためのアートバッグです。

